

目 次

徹底解説 本試験問題シリーズの刊行にあたって

試験制度解説編

1. ITストラテジスト試験の概要 8
2. 受験ガイド 16
3. 平成29年度秋期の試験に向けて 18

平成26年度秋期 問題と解答・解説編

- 午前Ⅰ問題 H26- 1
- 午前Ⅱ問題 H26- 17
- 午後Ⅰ問題 H26- 31
- 午後Ⅱ問題 H26- 51
- 午前Ⅰ問題 解答・解説 H26- 57
- 午前Ⅱ問題 解答・解説 H26- 73
- 午後Ⅰ問題 解答・解説 H26- 88
- 午後Ⅰ問題 試験センター発表の解答例 H26-100
- 午後Ⅱ問題 解答・解説 H26-104
- 午後Ⅱ問題 試験センター発表の出題趣旨と採点講評 H26-110

平成27年度秋期 問題と解答・解説編

- 午前Ⅰ問題 H27- 1
- 午前Ⅱ問題 H27- 17
- 午後Ⅰ問題 H27- 31
- 午後Ⅱ問題 H27- 53
- 午前Ⅰ問題 解答・解説 H27- 59
- 午前Ⅱ問題 解答・解説 H27- 76
- 午後Ⅰ問題 解答・解説 H27- 91
- 午後Ⅰ問題 試験センター発表の解答例 H27-103
- 午後Ⅱ問題 解答・解説 H27-107
- 午後Ⅱ問題 試験センター発表の出題趣旨と採点講評 H27-113

平成 28 年度秋期 問題と解答・解説編

午前Ⅰ問題	H28- 1
午前Ⅱ問題	H28- 19
午後Ⅰ問題	H28- 33
午後Ⅱ問題	H28- 53
午前Ⅰ問題 解答・解説	H28- 59
午前Ⅱ問題 解答・解説	H28- 79
午後Ⅰ問題 解答・解説	H28- 95
午後Ⅰ問題 試験センター発表の解答例	H28-107
午後Ⅱ問題 解答・解説	H28-111
午後Ⅱ問題 試験センター発表の出題趣旨と採点講評	H28-117

<出題分析>

ITストラテジスト試験	出- 1
(1) 午前問題出題分析	出- 2
(2) 午前の出題範囲	出-14
(3) 午後Ⅰ問題 予想配点表	出-24

商標表示

各社の登録商標および商標、製品名に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分に尊重いたします。

1. ITストラテジスト試験の概要

1-1 情報処理技術者試験

情報処理技術者試験は、「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験です。「独立行政法人 情報処理推進機構 IT 人材育成本部 情報処理技術者試験センター」（以下、試験センター）によって実施されています。

情報処理技術者試験の目的は次のとおりです。

- ・情報処理技術者に目標を示し、刺激を与えることによって、その技術の向上に資すること。
- ・情報処理技術者として備えるべき能力についての水準を示すことにより、学校教育、職業教育、企業内教育等における教育の水準の確保に資すること。
- ・情報技術を利用する企業、官庁などが情報処理技術者の採用を行う際に役立つよう客観的な評価の尺度を提供し、これを通じて情報処理技術者の社会的地位の確立を図ること。

IT を利活用する者		情報処理技術者試験							情報処理安全確保支援士試験		
ITの安全な利活用を推進する者		情報処理技術者（ベンダ側/ユーザ側）							情報処理安全確保支援士試験		
ITの安全な利活用を推進するための基本的知識・技能	情報セキュリティマネジメント試験 (SG)	高度な知識・技能	ITストラテジスト試験 (ST)	システムアーキテクト試験 (SA)	プロジェクトマネージャ試験 (PM)	ネットワークスペシャリスト試験 (NW)	データベーススペシャリスト試験 (DB)	エンベデッドシステムスペシャリスト試験 (ES)	ITサービスマネージャ試験 (SM)	システム監査技術者試験 (AU)	情報処理安全確保支援士試験 (情報セキュリティスペシャリスト試験) (SC)
全ての社会人	ITパスポート試験 (IP)		応用的知識・技能	応用情報技術者試験 (AP)							
ITを活用するための共通の基礎知識			基本的知識・技能	基本情報技術者試験 (FE)							

*情報処理安全確保支援士試験合格者は、情報処理安全確保支援士登録簿に必要事項を登録することにより、情報処理安全確保支援士になることができる

図表 1 情報処理技術者試験

1-2 ITストラテジスト試験の概要

(1) ITストラテジストの対象者像

ITストラテジストの対象者像は、次のように規定されています。
業務と役割、期待する技術水準、レベル対応も示されています。

対象者像	<p>高度IT人材として確立した専門分野をもち、企業の経営戦略に基づいて、ビジネスモデルや企業活動における特定のプロセスについて、情報技術を活用して改革・高度化・最適化するための基本戦略を策定・提案・推進する者。また、組込みシステムの企画及び開発を統括し、新たな価値を実現するための基本戦略を策定・提案・推進する者。</p>
業務と役割	<p>情報技術を活用した事業革新、業務改革、革新的製品・サービス開発を企画・推進又は支援する業務に従事し、次の役割を主導的に果たすとともに、下位者を指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 業種ごとの事業特性を踏まえて、経営戦略の実現に向けた情報技術を活用した事業戦略を策定し、実施結果を評価する。 ② 業種ごとの事業特性を踏まえて、事業戦略の実現に向けた情報システム戦略と全体システム化計画を策定し、実施結果を評価する。 ③ 情報システム戦略の実現に向けて、個別システム化構想・計画を策定し、実施結果を評価する。 ④ 情報システム戦略の実現に向けて、事業ごとの前提や制約を考慮して、複数の個別案件からなる改革プログラムの実行を管理する。 ⑤ 組込みシステムの開発戦略を策定するとともに、開発・製造・保守などにわたるライフサイクルを統括する。
期待する技術水準	<p>事業企画、業務改革推進、情報化企画、製品・サービス企画などの部門において、情報技術を活用した基本戦略の策定・提案・推進を遂行するため、次の知識・実践能力が要求される。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事業環境分析、情報技術動向分析、ビジネスモデル策定への助言を行い、事業戦略を策定又は支援できる。また、事業戦略の達成度を評価し、経営者にフィードバックできる。 ② 対象となる事業・業務環境の調査・分析を行い、情報システム戦略や全体システム化計画を策定できる。また、情報システム戦略や全体システム化計画を評価できる。 ③ 対象となる事業・業務環境の調査・分析を行い、全体システム化計画に基づいて個別システム化構想・計画を策定し、適切な個別システムを調達できる。また、システム化構想・計画の実施結果を評価できる。 ④ 情報システム戦略や改革プログラム実施の前提条件を理解し、情報システム戦略実現のモニタリングとコントロールができる。また、情報システム戦略実現上のリスクについて、原因分析、対策策定、対策に実施などができる。

3. 平成 29 年度秋期の試験に向けて

3-1 ITストラテジスト試験について

午前Ⅱは難しい問題が少なく、比較的答えやすい内容でした。午後Ⅰは昨年までと内容、難易度ともに大きな違いはありませんでした。午後Ⅱは最近の話題を取り上げた問題が多かったのが特徴でした。

午前Ⅱは、システム戦略、経営戦略マネジメントの問題が増えました。最近の世の中の動きをとらえた問題も多くありましたが、設問内容はそれほど難しくありませんでした。

午後Ⅰの出題内容は、問 1 が大学、問 2 が医療関係、問 3 が製造メーカ、問 4 が計測機器メーカでした。問 4 は例年どおり、組込みシステムに関する問題でしたが、特に組込みシステムに詳しくなくても解答できる内容でした。どの問題もヒントが明確に書かれた比較的答えやすい問題でしたので、それを見逃さずに解答することが重要です。

午後Ⅱは、問 1 がビッグデータを活用した革新的な新サービスの提案、問 2 が IT 導入の企画における業務分析、問 3 が IoT に対応する組込みシステムの製品企画戦略に関する出題でした。問 1、問 3 は最近話題になることが多い新しい技術に関する問題でしたので、これに関連するシステムの企画に携わったことがある人は書きやすい問題だったと思います。問 2 は定番の問題でしたので、多くの人が選択可能だったと思います。

この数年間、経営戦略、システム戦略や企業活動に関する目新しい用語が多く出題されていますので、日ごろから経営関連の新聞や雑誌の記事などに注意を払っておくことが重要です。

年度	応募者数	受験者数 (受験率)	合格者数 (合格率)
平成 24 年度秋期	7,359	5,090 (69.2%)	713 (14.0%)
平成 25 年度秋期	7,117	4,810 (67.6%)	677 (14.1%)
平成 26 年度秋期	6,739	4,466 (66.3%)	671 (15.0%)
平成 27 年度秋期	6,663	4,487 (67.3%)	656 (14.6%)
平成 28 年度秋期	6,676	4,594 (68.8%)	645 (14.0%)

図表 11 応募者数、受験者数、合格者数の推移

3-2 午前 I 試験

高度情報処理技術者の午前 I 試験は、共通知識として幅広い出題範囲の全分野から 30 問が出題される試験です。出題分野の内訳はテクノロジー分野が 17 問、マネジメント分野が 5 問、ストラテジ分野が 8 問で、ここ数回同じ出題数です。

平成 26 年秋期試験から重点的に出題されているセキュリティ分野の問題は今回もこれまでと同じ 4 問で、出題数が定着したといえます。

今回の試験で新傾向問題といえるものは次の 2 問でしたが、問 9 の問題はやや難の内容です。

問 9 B⁺木インデックスのアクセス回数オーダ

問 18 PMBOK の統合変更管理プロセス

問題の出題形式としては、文章の正誤問題が 15 問（前回 19 問）、用語問題が 4 問（前回 5 問）、計算問題が 5 問（前回 2 問）、考察問題が 6 問（前回 4 問）で、前回と比べて文章の正誤問題が減り、計算問題と考察問題が増えています。出題内容としては、基礎理論の問題が基本情報技術者試験レベルでこれまでの問題と比べて少し易しかったといえますが、アルゴリズムの問題が突然現れて、驚いた方も多かったと思われます。全体としては、計算問題と考察問題が増えた分、少し難しく感じられた試験だったといえます。

高度情報処理技術者の午前 I 試験は出題範囲が広い中からの 30 問なので、対策としては日ごろから、基本情報技術者から応用情報技術者試験レベルの問題を少しずつ解いて基礎知識を維持することが大切です。

次に、新傾向問題を含む出題内容全体を示します。定番問題もありますが、下線を引いた問題は高度午前 I 試験ではあまり出題されていない内容です。あまり聞かない用語や、解答に少し時間がかかる問題といえますが、基礎知識を確実に理解していれば、用語問題は消去法で、計算問題は少し時間をかけて丁寧に考えることで、解答できる問題です。

- ・テクノロジー分野……近似値を求めるアルゴリズム、有限オートマトン、ヒープソート、メモリインタリーブ、アベイラビリティの変化、主記憶管理、論理回路、SMIL、B⁺木インデックスのアクセス回数、DBMS の再立上げ、ARP、IPv6 の拡張ヘッダ、チャレンジレスポンス認証、認証デバイス、ハイブリッド暗号方式、UML のユースケース図、ソフトウェアの使用許諾
- ・マネジメント分野……PMBOK の統合変更管理プロセス、アローダイアグラム、

プロジェクト完了日数，バックアップ，内部統制

- ・ストラテジ分野……ソリューションビジネスの KPI, BI の活用事例, 契約形態, ベンチマーキング, アンゾフの成長マトリクス, 部品所要量の計算, 故障率曲線, 産業財産権

参考までに，午前 I 試験問題の出題比率は次のような結果で，大分類別の出題数も変わっていません。

分野	大分類	分野別	27 年秋	28 年春	28 年秋
テクノロジ系	基礎理論	17	3	3	3
	コンピュータシステム		4	4	4
	技術要素		8	8	8
	開発技術		2	2	2
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	5	2	1	3
	サービスマネジメント		3	4	2
ストラテジ系	システム戦略	8	3	3	3
	経営戦略		3	3	3
	企業と法務		2	2	2
合計		30	30	30	30

図表 12 午前 I 試験 大分類分野別出題数

出題される内容は，過去に何度も出題されている基本的な問題が大半を占めます。高度系試験で専門分野の力を発揮するのは午前 II 試験からになりますが，午前 I 試験はそのための“入場券”に当たるので，試験対策としては，過去の応用情報技術者試験の午前問題を解き，余裕をもたせて 7 割以上正解できるよう確実に実力を付けてください。

特にセキュリティは重点的に出題される分野なので，まずは基礎知識として最近 2 年間ぐらいの応用情報技術者試験で出題された問題を解いてみて，理解できていない内容を中心に学習することをお勧めします。

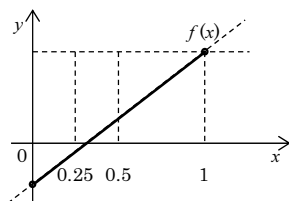
●平成 28 年度秋期

午前 I 問題 解答・解説

問 1 ア

近似値を求める処理の実行回数 (H28 秋・高度 午前 I 問 1)

$0 \leq x \leq 1$ の範囲で単調に増加する連続関数 $f(x)$ というのは、 $0 \leq x \leq 1$ の範囲で、関数 $f(x)$ の値が減ることなく増加一方 (単調増加) であり、かつ、関数 $f(x)$ の値が途切れずに連続している (連続関数) ということである。例えば、 $f(x) = ax + b$ のような 1 次関数 (次図参照) などが、その代表である。



問題の [アルゴリズム] では、(1)で区間の下限 x_0 に 0, 上限 x_1 に 1 を設定し、(2)で x に区間の中点を求める。そして、(3)で x_1 と x (区間の中点) との差が 0.001 未満であれば終了、そうでなければ、(4)で $f(x)$ の値 (正負) によって、 x を x_1 か x_0 に設定することで、区間の幅を半分にして(2)に戻る。ここで、終了条件が $f(x)$ の値ではなく、 $x_1 - x < 0.001$, つまり、区間の上限と区間の中央値の差になっていることに注意する。区間の上限, 下限は、 $f(x)$ の値によって変化するが、区間の幅については、繰返しの度に $1/2$ になっていく。そして、区間の幅 ($x_1 - x_0$) と区間の上限値と中央値の差 ($x_1 - x$) はそれぞれ表のように変化していき、 $x_1 - x$ が 0.001 未満になるのは 10 回目の $1/1024$ のときなので、(ア) が正解である。

回数	$x_1 - x_0$	$x_1 - x$
1	1	$1/2$
2	$1/2$	$1/4$
3	$1/4$	$1/8$
4	$1/8$	$1/16$
5	$1/16$	$1/32$
6	$1/32$	$1/64$
7	$1/64$	$1/128$
8	$1/128$	$1/256$
9	$1/256$	$1/512$
10	$1/512$	$1/1024$

なお、(3)の $x_1 - x$ の値に注目すると、 $1/2^1$, $1/2^2$ ($=1/4$), $1/2^3$ ($=1/8$) …と変化していくので、 N 回目には、 $1/2^N$ になる。そして、 $x_1 - x = 1/2^N < 0.001$ が終了条件なので、 $1/2^N$ が 0.001 ($=1/1000$) 未満になったときに終了する。ここで、 $2^{10} = 1024$ であり、 $1/2^{10} (=1/1024)$ のときに 0.001 未満になり終了するので、このような計算からも (ア) 10 が正解であることが分かる。

●平成 28 年度秋期

午前Ⅱ問題 解答・解説

問 1 ア

EA で機能情報関連図 (DFD) を作成する目的 (H28 秋・ST 午前Ⅱ問 1)

エンタープライズアーキテクチャ (EA ; Enterprise Architecture) は、情報システムの全体最適化を図るための方法論で、経済産業省が日本政府や公共団体に普及させる目的で調査研究を進めてきたものである。そこではビジネスアーキテクチャ、データアーキテクチャ、アプリケーションアーキテクチャ、テクノロジーアーキテクチャという四つのドメインによって情報システムの構造を定義する。

機能情報関連図 (DFD ; Data Flow Diagram) は、業務・システムの機能と情報の流れを明確にするために、ビジネスアーキテクチャで作成する。したがって、(ア) が正しい。

イ：ビジネスアーキテクチャで作成する、業務説明書の目的である。

ウ：アプリケーションアーキテクチャで作成する、情報システム関連図の目的である。

エ：データアーキテクチャで作成する、データ定義書の目的である。

問 2 ア

SCOR で定義している実行プロセス (H28 秋・ST 午前Ⅱ問 2)

SCOR (Supply Chain Operations Reference model) とは、SCM (Supply Chain Management) の標準プロセスの定義を行っている団体 SCC (Supply Chain Council) が公開したサプライチェーンのオペレーションのプロセス参照モデルである。異業種間におけるプロセス連携においては、プロセスの粒度が異なったり用語が不一致になったりして、うまく連携できないという事態が生じる。

SCOR ではサプライチェーンの業務プロセスをレベル 1～3 の 3 段階で定義し、レベル 1 はトップレベル、レベル 2 はコンフィグレーションレベル、レベル 3 はエレメントレベルと呼ばれている。レベル 1 は組織のプロセスを定義しており、Plan (計画)、Source (資源・調達)、Make (製造)、Deliver (配送)、Return (返品) の主要マネジメントプロセスで構成される。資材などの購入は、資源を調達していると考えられるため Source に該当する。したがって、(ア) が正解である。

イ：受注と納入は配送作業に関連すると考えられるため Deliver に該当する。

ウ：納入後に発生する作業の一つに返品があると考えられるため Return に該当する。

エ：プロダクトの生産、サービスの実施は製造であると考えられるため Make に

●平成 28 年度秋期

午後 I 問題 解答・解説

問 1 大学の業務及び情報システムの統合

(H28 秋-ST 午後 I 問 1)

【解答例】

- [設問 1] (1) 新法人の財務諸表と各大学の勘定科目、予算科目間の対応
 (2) 学部 LAN の詳細な NW 構成情報
 (3) 研究用 LAN の運用方法
- [設問 2] (1) 人事給与システムの人事情報
 (2) A 大学の臨時職員や非常勤講師の電子メールアカウントを適時に発行できない。
 (3) 業務が統一されず、教務情報や学納金の管理業務が複雑になる。
- [設問 3] 業務手順の検討には、情報システム部門以外の事務局の職員の参加が必要だから

【解説】

大学の再編に伴う業務及び情報システムの統合の問題であった。多くは情報システム基盤に関する設問で、大学の業務内容について踏み込んだ内容はないので、業務に関する知識がなくても問題はなかったと思われる。ヒントも問題文に明確に記述されているので、比較的解答しやすい問題であった。

[設問 1]

- (1) 財務会計業務に関する統合計画を実施するために整理すべきことを答える設問である。財務会計業務に関する記述を問題文から探すと、表 1 の財務会計システムの情報システムの概要と現状の欄に「勘定科目や予算科目は、大学ごとに独自に規定し、運営している」という記述が見つかる。また、システム機能要求事項の欄には、「大学ごとに加えて、新法人としても一元的に財務諸表の作成、予算管理ができるようにする」という記述もあるので、勘定科目や予算科目を一元的に管理する財務諸表に対応させなくてはいけないことが分かる。したがって、解答としては、「新法人の財務諸表と各大学の勘定科目、予算科目間の対応」を挙げれば良い。
- (2) A 大学幹部の NW 工事に関する意見について、統合計画の実施において不足している情報が何かを答える設問である。NW 工事に関する意見は、〔業務・情報システム統合計画の課題〕に「学部学科の見直しでは校舎の割当ての変更が予定されており、これを機に一部の教室の改修工事に早々に着手することから、NW 工事を行うが、必要な情報が不足しているのではないか」という内容なので、NW 工事に関

●平成 28 年度秋期

午後Ⅱ問題 解答・解説

問 1	ビッグデータを活用した革新的な新サービスの 提案について	(H28 秋・ST 午後Ⅱ問 1)
-----	---	-------------------

【解説】

最近の IT 動向を反映したビッグデータに関する問題であった。以前データ活用に関する問題が出題されていたので、そろそろ出題が予想されるテーマであった。設問内容はオーソドックスなため、ビッグデータを活用した新サービスを企画した経験があれば書きやすい内容だったと思われる。

[設問ア]

設問アは、ビッグデータを活用した革新的な新サービスの提案の背景にある事業環境、事業概要について述べる必要がある。事業環境、事業概要に関しては、自身が関与している事業について、素直に述べていけばよいので難しいことはない。設問文に「事業特性とともに」と書かれているため、必ず事業の特性についても述べなくてはならない。

これらを述べるときに重要なことは、設問イで述べる新サービスとの関連を意識して書くことである。このような事業特性があるので、このような新サービスが必要になるという必然性が出るように全体の論文設計を行うことが重要である。

[設問イ]

設問イは、ビッグデータを活用した革新的な新サービスの内容を述べる必要がある。顧客や状況、効果や効能、実現方法、今までのサービスとの違いを盛り込む必要がある。これらの多くの項目を、一貫した流れの中でうまく漏れなく述べられるかどうか重要なポイントになる。

問題文には、ビッグデータを活用した新サービスとして、次のような例が述べられている。

(1) センサと通信技術の向上によって収集できるようになったビッグデータを活用し、生産管理や物流管理を高度化する。

この具体的な例としては、次のように記述されている。

- ・生産設備の稼働情報と製品の品質情報との相関関係を分析し、生産設備の最適設定・予防保守などを行う。

その他の例としては、次のようなものもある。

- ・全世界で販売した建設機械の稼働情報を分析することで、今後の需要予測を精度高く行い、生産計画、販売計画の立案の参考にする。

・問題番号順

平成 28 年度秋期 IT ストラテジスト 午前Ⅱ試験

問	問題タイトル	正解	分野	大	中	小	難易度
1	EA で機能情報関連図 (DFD) を作成する目的	ア	S	7	17	1	3
2	SCOR で定義している実行プロセス	ア	S	7	17	1	3
3	協調フィルタリングを用いたもの	ウ	S	7	17	1	4
4	PBP (Pay Back Period) による投資効果評価	エ	S	7	18	1	4
5	E-R モデルを用いた全社のデータモデルの作成手順	イ	S	7	18	2	3
6	LBO (レバレッジド・バイアウト)	エ	S	8	19	1	3
7	環境分析の代表的なフレームワーク	イ	S	8	19	1	3
8	コアコンピタンスの説明	イ	S	8	19	1	3
9	ブルーオーシャン戦略の特徴	ア	S	8	19	1	3
10	FSP (Frequent Shoppers Program) の説明	ウ	S	8	19	2	4
11	消費者市場のセグメンテーション変数	イ	S	8	19	2	3
12	キャズム理論で“キャズム”が存在する場所	イ	S	8	19	2	4
13	CSF 分析で明らかになるもの	ウ	S	8	19	2	3
14	SECI モデルの知識変換プロセス	エ	S	8	19	4	4
15	問題解決技法	イ	S	8	20	1	3
16	XBRL (eXtensible Business Reporting Language) の説明	ウ	S	8	21	3	3
17	ボランタリーチェーンの説明	ウ	S	8	19	2	3
18	TOC の特徴	ウ	S	8	19	4	3
19	BCM において考慮すべきレジリエンス	エ	S	9	22	1	4
20	コンピテンシモデル	ウ	S	9	22	1	3
21	人事考課におけるハロー効果	ウ	S	9	22	1	4
22	連結売上高の算出	ア	S	9	22	3	4
23	下請代金支払遅延等防止法で禁止されている行為	イ	S	9	23	3	3
24	シングルサインオンの実装方式の特徴	エ	T	3	11	5	3
25	WPA2 (Wi-Fi Protected Access2) で利用される暗号化アルゴリズム	ア	T	3	11	1	3

・ITストラテジスト 午前Ⅱ試験の出題範囲順

平成 26 年度秋期, 平成 27 年度秋期, 平成 28 年度秋期

期	問	問題タイトル	正解	分野	大	中	小	難易度
H28 秋	25	WPA2 (Wi-Fi Protected Access2) で利用される暗号化アルゴリズム	ア	T	3	11	1	3
H27 秋	24	JIS Q 22301 : 2013 の要求事項	ウ	T	3	11	2	3
H26 秋	25	シングルサインオンの実装方式の特徴	エ	T	3	11	5	3
H27 秋	25	メールサーバの不正利用の防止設定	イ	T	3	11	5	3
H28 秋	24	シングルサインオンの実装方式の特徴	エ	T	3	11	5	3
H27 秋	2	TCO の算定	エ	S	7	17	1	3
H28 秋	1	EA で機能情報関連図 (DFD) を作成する目的	ア	S	7	17	1	3
H28 秋	2	SCOR で定義している実行プロセス	ア	S	7	17	1	3
H26 秋	1	エンタープライズアーキテクチャの BRM	イ	S	7	17	1	4
H27 秋	1	戦略マネジメントでの実施項目	ウ	S	7	17	1	4
H28 秋	3	協調フィルタリングを用いたもの	ウ	S	7	17	1	4
H27 秋	3	業務プロセスの改善活動	ウ	S	7	17	2	3
H26 秋	2	IDEAL によるプロセス改善	イ	S	7	17	2	4
H26 秋	3	BI の説明	ア	S	7	17	4	3
H26 秋	4	PBP による投資効果評価	エ	S	7	18	1	3
H27 秋	4	システム化計画の立案で実施する作業	ウ	S	7	18	1	3
H27 秋	5	NPV の算出式	ウ	S	7	18	1	4
H28 秋	4	PBP (Pay Back Period) による投資効果評価	エ	S	7	18	1	4
H28 秋	5	E-R モデルを用いた全社のデータモデルの作成手順	イ	S	7	18	2	3
H26 秋	5	情報提供をベンダに要請するもの	イ	S	7	18	3	3
H26 秋	8	プロダクトポートフォリオマネジメント	ウ	S	8	19	1	2
H27 秋	6	アンゾフの成長マトリクス	ウ	S	8	19	1	3
H28 秋	6	LBO (レバレッジド・バイアウト)	エ	S	8	19	1	3
H28 秋	7	環境分析の代表的なフレームワーク	イ	S	8	19	1	3
H28 秋	8	コアコンピタンスの説明	イ	S	8	19	1	3

■平成 28 年度秋期 IT ストラテジスト試験
午後 I の問題 (問 1～問 4 から 2 問選択)

問番号	設問	設問内容	小問数	小問点	配点	満点
問 1	1	(1)	1	8.0	8.0	50.0
		(2)	1	5.0	5.0	
		(3)	1	4.0	4.0	
	2	(1)	1	4.0	4.0	
		(2)	1	10.0	10.0	
		(3)	1	9.0	9.0	
3		1	10.0	10.0		
問 2	1	(1)	1	6.0	6.0	50.0
		(2)①, ②	2	2.0	4.0	
	2	(1)	1	12.0	12.0	
		(2)	1	10.0	10.0	
	3	(1)検討内容	1	6.0	6.0	
		(1)留意点	1	6.0	6.0	
(2)	1	6.0	6.0			
問 3	1	(1)	1	3.0	3.0	50.0
		(2)	1	7.0	7.0	
		(3)	1	3.0	3.0	
	2	(1)	1	5.0	5.0	
		(2)	1	6.0	6.0	
		(3)	1	7.0	7.0	
	3	(1)	1	10.0	10.0	
		(2)	1	9.0	9.0	
問 4	1		1	8.0	8.0	50.0
	2	(1)	1	8.0	8.0	
		(2)	1	7.0	7.0	
		(3)	1	8.0	8.0	
	3	(1)	1	4.0	4.0	
		(2)	1	8.0	8.0	
(3)		1	7.0	7.0		
					合計	100.0